

銀行に預け入れている預金に利息が付されたため、これを受け取り、受取利息勘定（収益）の貸方に記入します。この利息は、普通預金口座に入金されていますので、普通預金勘定（資産）の借方に記入して資産を増加させます。

固定資産を取得したときの取得原価は、固定資産の代価に付随費用を加えた合計額とします。土地の代価に付随費用を加えた取得原価 9,390,000 円で、土地勘定（資産）の借方に記入します。小切手を振り出して支払った額は、当座預金勘定（資産）の貸方に記入します。

なお、固定資産の付随費用には、買入手数料、登記料、整地費、据え付け費、試運転費などがあります。

普通預金への預け入れは、普通預金勘定（資産）の借方に記入して資産を増加させます。また、手もとの現金が減少するので、現金勘定（資産）の貸方に記入します。

売掛金を貸し倒れとしたときは、売掛金勘定（資産）の貸方に記入して資産を減少させます。貸し倒れとなった売掛金が前期以前に発生したものであり、貸倒引当金の残高があるため、貸倒引当金勘定（資産のマイナスをあらわす＝評価勘定という）の借方に記入して相殺（充当）します。

なお、当期に発生した売掛金が当期中に貸し倒れとなった場合は、貸倒引当金勘定の残高があっても使用できず、貸倒損失（費用）の借方に記入します。

2 各取引について仕訳を考え、その勘定科目から記入される伝票を判断します。

① (借) 現金 2,700 (貸) 未収金 2,700

現金を受け取っているため、現金が増加する取引=入金取引です。したがって、入金伝票を起票します。科目欄には、相手勘定の**未収金**と、入金先には、相手先の浦添商店と記入します。摘要欄には、取引の内容を簡潔にまとめて記入します。

② (借) 通信費 36,000 (貸) 現金 36,000

郵便便切手を購入したら通信費勘定で処理します。また、現金で購入しているため、現金が減少する取引=出金取引です。したがって、出金伝票を起票します。科目欄には、相手勘定の**通信費**と、支払先には、相手先の沖縄郵便局と記入します。摘要欄には、取引の内容を簡潔にまとめて記入します。

③ (借) 借入金 220,000 (貸) 当座預金 220,000

借用証書による借り入れ(借入金勘定で処理)を、小切手を振り出して返済する取引です。したがって、現金の増減(入出金)が生じない取引であるため、振替伝票を起票します。振替伝票は、通常の仕訳と同様に、借方科目と金額、貸方科目と金額を記入します。摘要欄には、取引の内容を簡潔にまとめて記入します。

3 まず、(1)の問題は、取引を仕訳帳と総勘定元帳へ記入する流れを確認する問題です。仕訳帳と総勘定元帳には、すべての取引が記録される大切な役割があるため、これらの帳簿を**主要簿**といいます。

つぎに、(2)の問題は、**売掛金元帳**と**買掛金元帳**への記入をおこないます。売掛金元帳と買掛金元帳は、総勘定元帳の売掛金勘定と買掛金勘定の記録を補助する役割があるため、**補助簿**といいます。

売掛金元帳は、得意先の商店名をもちいた**人名勘定**を設けて得意先ごとの売掛金の増減を記録します。このため、売掛金勘定の記録と、売掛金元帳のすべての人名勘定の記録の合計は一致します。この関係から売掛金勘定を**統制勘定**といいます。

また、買掛金元帳は、仕入先の商店名をもちいた**人名勘定**を設けて仕入先ごとの買掛金の増減を記録します。このため、買掛金勘定の記録と、買掛金元帳のすべての人名勘定の記録の合計は一致します。この関係から買掛金勘定を**統制勘定**といいます。

(3)1月末における合計残高試算表を作成します。合計残高試算表は、総勘定元帳の各勘定の借方合計金額と貸方合計金額を集計して作成する合計試算表と、各勘定残高を集計して作成する残高試算表を1つにまとめたものです。総勘定元帳の借方・貸方の一致を確認するだけでなく、合計金額から今年度の取引総額を確認することや、各勘定残高の一覧が、貸借対照表や損益計算書の基礎資料となります。

例5日の取引を記入します。仕訳は(借)売掛金300,000(貸)売上300,000となります。

※取引を一連の流れで記入してみます。

取引 - 仕訳 → 仕訳帳 - 転記 → 総勘定元帳 - くわしく記録 → 売掛金元帳

①まず仕訳帳に記入します。

日付を記入し、借方の勘定科目と金額を記入して、1行さげて貸方の勘定科目と金額を記入します。なお、仕訳帳に勘定科目を記入するときは、借方は左よりに、貸方は右よりに記入します。元丁欄には、転記する総勘定元帳のページ数を記入します(売掛金は総勘定元帳の3ページ、売上は同9ページです)。なお、次の取引を仕訳帳に記入するときは、直前の取引と区別するため摘要欄に区切線を引き、次の行から記入をおこないます。

②つぎに、総勘定元帳の売掛金勘定と売上勘定へ転記します。

仕訳の借方が売掛金であるため、売掛金勘定の借方に日付・金額を記入します。次に、仕訳の貸方が売上であるため、売上勘定の貸方に日付・金額を記入します。

③売掛金の増減を売掛金元帳にもくわしく記録します。

今回の取引は、広島商店との掛け取引ですから、売掛金元帳にある人名勘定の広島商店へ日付・金額を記入します。なお、補助簿である売掛金元帳は、月末に締め切ります。

合計残高試算表の作成手順

①この問題では、1月31日の合計残高試算表を作成するため、(1)ですべての取引が仕訳・転記されたあとに作成します。

②総勘定元帳の各勘定の借方合計金額と貸方合計金額を計算し、合計残高試算表の各勘定科目の合計欄に記入します。

③合計欄の借方合計額と貸方合計額が一致することを確認して、締め切ります。

もし、借方合計と貸方合計が一致しない場合は、一つの取引ごとに、

仕訳の借方合計金額と貸方合計金額が一致しているか

仕訳が正しく転記されているか

を確認しましょう。

④合計残高試算表の各勘定の貸借差額により残高を計算します。残高は、ふつう、

資産・費用の各勘定・・・「借方」残高

負債・純資産・収益の各勘定・・・「貸方」残高

となるため、資産・費用の各勘定残高は、残高欄の借方に、負債・純資産・収益の各勘定残高は、残高欄の貸方に記入します。

4 (2) a 損益法の計算式から、収益総額 - 費用総額 = 当期純損益 により求めます。

$$9,104,000 - 8,102,000 = + 1,002,000$$

b 次の順で求めます。

① 期首資産 - 期首負債 = 期首純資産 $7,514,000 - 2,994,000 = 4,520,000$

② 繰越試算表の資本金は、当期純利益を含む期末純資産の金額ですから、

期首純資産 + 当期純利益 = 期末純資産 で求めます。 $4,520,000 + 1,002,000 = 5,522,000$

③ 繰越試算表の貸方合計は 7,888,000 となりますので、貸借差額から現金（ア）の金額は、
1,598,000 となります。

5 (1) 決算整理仕訳

a. 売上原価の算定

期首商品棚卸高を、繰越商品勘定から仕入勘定に振り替えます。また、期末商品棚卸高を、仕入勘定から繰越商品勘定へ振り替えます。この仕訳を仕入勘定に転記すると、仕入勘定で売上原価が算定されます。

a	仕 入	245,000	繰 越 商 品	245,000	…期首商品棚卸高の振り替え (残高試算表の繰越商品 245,000 円より)
	繰 越 商 品	265,000	仕 入	265,000	…期末商品棚卸高の振り替え (決算整理事項の a より)

b. 貸倒引当金の設定

残高試算表の売掛金の期末残高 500,000 円のうち 3%が、次期以降に貸し倒れが発生するおそれがあると見積もり、貸倒引当金を 15,000 円に設定します。なお、残高試算表の貸倒引当金勘定には 10,000 円の残高があるため、貸倒引当金の見積額から貸倒引当金勘定の残高を差し引いた 5,000 円を繰り入れる (補充する) 仕訳を行います。

b	貸倒引当金繰入	5,000	貸 倒 引 当 金	5,000	
売掛金残高 500,000 円 × 3% = 15,000 円 …貸倒見積額 = 貸倒引当金の設定金額 貸倒見積額 15,000 円 - 貸倒引当金残高 10,000 円 = 5,000 円 …貸倒引当金に繰り入れる (補充する) 金額					

c. 固定資産の減価償却

当期の減価償却費を計算し、直接法により備品勘定の残高を直接減額します。

c	減 価 償 却 費	260,000	備 品	260,000	… (1,300,000 - 0) ÷ 5 年 = 260,000 円
---	-----------	---------	-----	---------	-------------------------------------

(2) 精算表の作成

- ① はじめに、残高試算表をもとに精算表の残高試算表欄を記入します。
- ② 決算整理仕訳 (上記(1)の a ~ c) を整理記入欄に記入し、借方欄と貸方欄の縦計を求め、一致することを確認します。
- ③ 残高試算表欄の金額に整理記入欄の金額を加減した残高を、損益計算書欄・貸借対照表欄に記入します。
- ④ 最後に、損益計算書欄および貸借対照表欄それぞれの貸借差額を当期純利益として記入し、縦計を一致させて締め切ります。

(3) 受取手数料勘定の記入

受取手数料は、損益計算書に表示する収益の勘定です。収益の勘定残高は、損益勘定に振り替える決算振替仕訳を行います。この問題では、仕訳を解答する必要はありませんが、仕訳をもとに勘定への転記をおこない、締め切ります。

参考に、受取手数料勘定の決算振替仕訳を示すと次のようになります。

参考	受 取 手 数 料	88,000	損 益	88,000	…受取手数料勘定の残高を損益勘定へ振り替え
----	-----------	--------	-----	--------	-----------------------